第180話　本町域の私塾・寺子屋⑨　中山町歴史散策

松田彭仙塾（ほうせん）塾

当町の私塾の特徴の1つとして医師が開いた塾が多かったことは第177・178話で紹介しましたが、その典型的な1つとして、松田彭仙塾が挙げられます。松田家の先祖は「新貝家系譜」によって知ることができます。先祖の山崎大学頭忠勝は最上義光の寒河江征伐の後、母の郷里の松田彦次郎楯に退いて慶長17年（1612）に死去しました。

2代目新貝茂左衛門勝治は長崎村に移住し、松田姓を新貝姓に改め、寛永年中には庄屋となりました。

10代目にあたる長益彭仙は文化3年（1806）に生まれ、医業の傍ら柴橋代官所から十手捕縄による博徒の不良集団取締役を命ぜられたという異色の人物です。現在の警察官にも該当する仕事を医業の傍ら兼務していることはいささか奇異の感がありますが、これは彼の性格と社会的な活躍を物語る象徴のようです。

また多くの門弟を指導した証として、その酬恩碑が円同寺墓地に門弟らの建立により残されています。正面に彭庵洞仙居士、右面に「文久元星八月廿五日　行年五六歳筆弟中」と刻まれており、また台石には次の人物の名前があります。

庄司栄七　伊藤兵六
髙橋庄助　髙橋新吉
佐藤兵助　黒沼銀蔵
西堀忠助　佐藤運七

※引用　中山町史　中巻
第10章第2節　教育

（参考）弟子入りが許されると
入門誓約書を師へ提出する

私たち地域おこし協力隊です！ No.48

協力隊の稲垣です。今回は柏倉家の聞き取り調査の裏話を、今までの体験談も交えて紹介します。聞き取り調査では同じ方にお話を伺う場合でも一回ごとに発見があります。話題の違いもありますが、前に聞いた話の続きや詳細、関連情報がわかることもあります。そのため調査の際には同じ質問を改めて聞くこともありました。

お話を聞く中でなにより注意したことは、自分の知識や考えに当てはめないことです。例えば「シメナワ」と聞いて私の知るシメナワと実際に使っていたシメナワの形や素材が別物である可能性があるからです。そこでその「シメナワ」がどんなものか、いつ、どこで使ったものか、入手や処分の方法などを確認しなければなりません。「同じ地元や世代の人ならわかるでしょう」と思うかもしれません。しかし、それは「知っているつもり」に過ぎず、改めて確認する必要があるのです。

もちろん、聞き取り調査で全てがわかるわけではなく、元の持ち主や関係者でも知らないことはたくさんあります。それでも単に「こんな話が聞けた」ではなく、「その話が意味するものは何か」を考察することで、普段見落としていたものを拾い集めることができるのです。

全国各地のシメナワ展示（日本民家園）

●協力隊への問い合わせ先●
伊藤 ☎662-2114（産業振興課）／ 稲垣 ☎662-2235（教育課）／ 髙橋 ☎662-2223（総務広報課）